

五郷学習

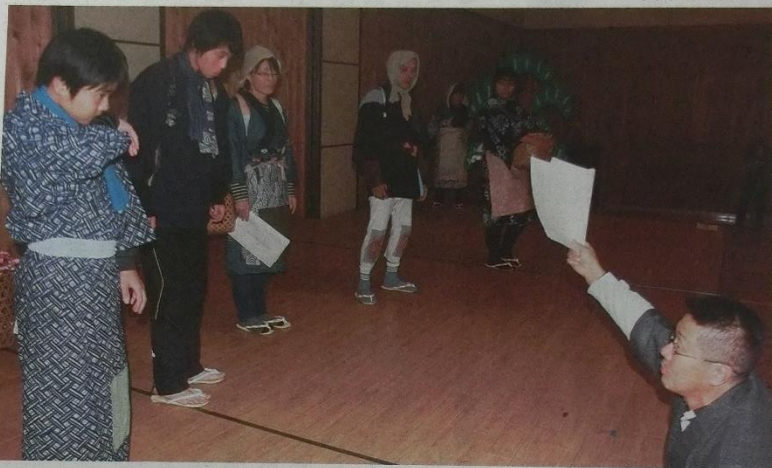
郷土劇の取組

2018. 11. 7(中日新聞より)

北山一揆 地域ぐるみで

11日
五郷中生と住民が劇

熊野市の五郷中学校で11日、文化祭が開かれ、戦国時代に検地に反対して起きた北山一揆を題材とした演劇が披露される。過疎高齢化が進む集落の拠点となる同校の創作劇は3年目を迎えるが、今年は全校生徒3人と少なく地域ぐるみでの発表となる。本番を前に、役者たちの練習に熱が入る。
(木造康博)



川上教諭の指導を受け、稽古に励む生徒や住民ら。熊野市の五郷中

「ちょっと待った。立ち位置が違ふ」。二日夜、体育館。古い浴衣などをまとった生徒や住民が冒頭の一場面を演じていると、脚本を執筆した川上竜生教諭(五〇)の厳しい指示が飛んだ。

脚本は「一揆の前夜が舞台で、時代に翻弄される農村の住民たちの苦闘を描いている。川上教諭は市史を読み込み、郷土史研究家にも話を聞いて、今年六月に三週間かけて仕上げた。殺される場面を見せないようにするなど、鑑賞する子どもたちに配慮して過激な表現は極力抑えている。

同校は郷土史を学ぶとともに表現力を養うことを目的に、二年前から地域の歴史をテーマとする劇を始め

た。「紀の川良子と市民劇団」の演技指導を受け、二年前は在校生七人が遊郭に身売りされた少女「おこん」を、昨年は六人が隠れキリシタンの少女「キク」を題材とした劇を発表した。だが今年は三人にまで減り、地域住民らも加わって総勢十九人で公演する。

生徒たちは七月から練習を始め、九月に入り本格的に稽古に励んでいる。わらを編む動作を演じるため、住民から指導を受けたという。二年の北岡亜加音さん(一四)は「与えられた役になりきれようと、本番まで頑張りたい」と意欲を見せる。

劇は十一日午前十時五十分ごろに始まる。同校は今後も継続して三作品を上演する考えで、高田有治校長は「地元を誇りに感じ、自信を持たせることにつながっている」と話している。



今年も、
地元のスター紀ノ川良子さん、
演出家の大谷深一さんに
ご指導いただきました。



今年は、保護者、地域の方も参加していただくことになり、定期的に学校に集まり、練習しています。



11月11日(日)に実施される本校の文化祭での創作郷土劇の取組が新聞に掲載されました。この創作劇は、五郷のことを知り、ふるさとを愛し、誇りに思う気持ちと、「将来の地域の担い手」を育てることを目標に、本校ですすめる「五郷学習」のまとめとしての取組であり、「おこん物語」「キク物語」と五郷地区にかかわる内容を題材にして3年目になります。今年は「北山一揆～その前夜～」を上演します。この取組を通して、子どもたちがふるさと五郷を誇りに思う気持ちがさらに育ってくれたらと考えています。